

## 腫瘍外科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

### 【腫瘍外科における切除可能局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法による治療成績の検討】への協力をお願い

局所進行直腸癌は局所再発率が高いことが特徴であり、本邦では側方リンパ節郭清が推奨されているが、欧米では術前化学放射線療法が標準治療とされており、本邦においても局所進行直腸癌に対し、術前化学放射線療法を施行する施設が増加しています。当科では切除可能局所進行直腸癌に対し、積極的に術前化学放射線療法を施行してきました。

この治療の治療成績を検証するためには後ろ向き研究（今までの臨床データを解析して、治療成績や患者さんの自然経過をみさせて頂く研究）が非常に重要です。

それにゆえ、当科で治療された患者さんの2011年5月～2016年5月までのデータを解析いたします。対象となるデータは、診療録（問診、診察所見）、検査結果（血液検査、下部消化管内視鏡検査、病理検査など）、画像検査（CT、MRIなど）、手術記録、化学放射線療法の有害事象など日常診療において行われてきた診療録のデータです。

この研究は、過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報匿名化させていただき、その保護には十分に配慮いたします。当然ながら、学会や論文などによる結果発表に際しても、個人の特定が可能な情報は全て削除されます。

この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には以下にご連絡いただきたいと思います。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

2016年10月5日

連絡先：岐阜大学医学附属病院 第2外科

研究代表者：吉田和弘

担当者：高橋孝夫、松橋延壽

電話：058-230-6233